

01.グッゲンハイムミュージアム・ニューミュージアム



フランク・ロイド・ライト設計のグッゲンハイムミュージアムはセントラルパークに面し、周囲の街並みからは一線を画したオーガニックアーキテクチャである。内部動線は階層があるにもかかわらず上下を非常に有機的につながれシーンとして明確では無い分、展示空間や訪れた人々の関係さえも一体感が感じられた。

ニューミュージアムはSOHOエリアの東側に位置し、南はチャイナタウンという場所に位置している。設計はSANNAによるもので階層ごとのブロックをずらし形態的に古い街並みにスケールをフィットさせることを試みているように感じた。最上階は展望用途になっており、地域のランドマーク的な要素も併せ持っている。外壁のテクスチャは日本でいう金網を用い外部からはモアレ効果を狙ったものとなっている。内部は近代アートが展示され抽象絵画的な外観とあっている。

二つの建築には街路との関係、既存概念の解体、階層を有機的につなぐなど半世紀ほど完成に差があるなかで共通項を見出せ、非常に有意義であると同時にライトの建築に新しさまでも感じた。(竹内 聡洋)